木村　喜由の『マーケット通信』

Vol. 424（2006年9月11日）

刹那的な動きが目に付く最近の市場

外資系証券の株式先物手口が突出

SQが通過し、週末の米国市場が堅調だったうえ寄付前発表のGDPが小幅上方修正と、気分的には落ち着いた展開が予想されたが、結局は2時発表の7月機械受注が市場予想を大きく下回ったところからは堰を切ったように株式先物売り・債券買いの波が押し寄せた。単月の経済指標が大きくぶれるのはしばしばあること。それにしては今回の株価の下げ方は大きい。やはりその背景に仕手的な行動を取る投資家の存在を疑うべきだろう。

先物ウォッチャーによると、8月下旬以降、クレディスイス証券の日経225先物の売り越し･買い越しが突出しており、この手口により、前日の海外市場などの動きや一般的な市場センチメントに逆行する動きが生じているという。多くの場合、株式先物と債券先物の動きが逆行しており、本日もそうであれば、同証券をメインに使っている短期大口投資家の介在が推定される。ただし、こういう動きは短期的にはインパクトがあっても、中期的には偏ったポジションが元に戻る過程で中和されるので、あまり神経質になるべきではない。

注意しておく必要があるのは、日経225採用銘柄が10月1日で2銘柄変更されること。除外される日本製粉、東映に比べ新規採用の東急不動産、東宝の株価はかなり高く、インデックスに連動させる必要のあるインデックスファンドや裁定業者は、除外銘柄だけでなく、現在保有している株式の一部を売却して新規採用銘柄の買付けに充てなければならない。膨大な金額が売りに出るわけではないが、売り需要が一巡するまで、買い手は慎重なスタンスを取るだろう。特に短期売買の投資家には、この件が実態以上に強く意識されるため、下向きの動きが強く出やすくなりやすい。

自民党総裁選は安倍晋三氏の当選でほぼ決まりということで、市場には織り込み済み、ノーインパクトと見る向きは多いが、竹中平蔵氏や宮内義彦氏が閣外に去ったり委員会から離れた場合、日本の構造改革が後退するのではないかと懸念する向き(特に外国人)は少なくないようだ。閣僚人事まで待つまでもなく、懸念を前倒ししてポジション圧縮を図る投資家もいるだろう。

結局、現在期待できる買い手は、以上に述べた要因は中長期的に見ればあまり問題にならず、当面の企業収益や景気の動向にも比較的楽観的に構えることができ、たとえ期待はずれに終わった場合でもリスクは許容範囲に収まると考える投資家に限られるだろう。しかし短期の投資家を除けば、現在の株価で換金売りをしたいという投資家は多くない。換金して普通預金に置いておくよりは、株を持続して、着々と増加している企業価値が株価に反映されるまで待つ方が得だと考える投資家の方が多いと思う。

特定非営利活動法人日本個人投資家協会〒103-0016 東京都中央区日本小網町 9-6 TEL03-3665-0211 FAX03-5641-2562 E-mail info@jaii.org

安倍さんでうまく行くとは思わない

筆者は小泉首相の功績を否定するつもりはない。景気の追い風に恵まれた面は多分にあったが、巨額の不良債権問題をスムーズに片付け、骨抜きにされたため実際のメリットのほどは疑問だが、道路公団や郵政民営化問題にはとにかくケリを付け、鉄壁に風穴を開けたことは、一代の首相でできることではない。しかし非難すべき点も多々ある。

失言、放言が原因で失脚した総理大臣はいるが、この職責にあって小泉純一郎氏ほど言葉を粗略に扱った人物を知らない。自民党をぶっ壊すとか、改革なくして経済成長

なしとか、米百俵の精神など、印象的なキャッチフレーズで人心を捕ガッチリえる能力はまさに天才的だったが、郵政民営化に反対するものは小泉政権に反対するものであるとか、赤字国債 30 兆円公約に対する答弁、あるいはイラクの大量破壊兵器の存在について詭弁を弄したところは、長らく議会史の汚点として記録されるだろう。一方で公約は絶対に守ると言って８月 15 日に靖国参拝を断行した。肝心な点で首尾一貫していないのである。

筆者が最も恐れることは、青少年への教育上の悪影響である。文民の長である宰相が弁舌で正々堂々と論陣を張らずに、詭弁と強権で持って反対者を葬り去ろうとしたことは、日本人の正義、倫理観、伝統的な美風に反すると思う。あまり短絡的に結論付けたくはないが、ホリエモンも村上ファンド事件も、言葉を大事にしない小泉政権下で「法律に書いてないことをやっても罰されない」と軽挙妄動したから起こったのではないかと感じる。筆者の聞き知る限り、彼らは以前は法に触れるような行動をしてまで結果を欲しがるような人物ではなかった。仮に小泉氏の責任でないとしても、小泉的存在が台頭するような、時代の空気だったのだろうと思う。

さて、後継最右翼の安倍氏であるが、前任者と同様、人気は高いが明確なビジョンは語らず、本音は懐に隠したまま、という印象である。麻生氏、谷垣氏が A4 用紙に 28 ページ、24 ページを費やした「政権構想」に項目タイトルを並べ 4 ページにまとめただけ。勝ち馬に乗りたいだけで政策が異なる支持者に配慮して、このような具体性に欠けるスタイルにしたのだろう。明確なのは「憲法改正を目標にする」姿勢だけである。

靖国参拝に態度を明らかにしなかったのは、参拝する方針が明確だから。現時点で公表してアジア諸国から攻撃されるのを避けただけだろう。消費税の具体的スケジュールを避けたのも、不人気な難題から逃げただけだろう。しかしおかげで年金など福祉給付財源が不透明化したとがめは大きい。国民にリスクテイクを促進するには、敗者の受け皿となる財源も準備しなくてはいけない。小泉さんと同じでいいとこ取りの議論に終わっている。この点では、将来給付が確定した分を賄うだけで消費税率 10%が必要な事実を正々堂々訴えた谷垣氏の誠実さが光った。呉越同舟、意思統一薄い安倍政権の前途は多難と見た。

（了）

★ このレポートは経済環境および投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資の最終決定はご自身の判断でなさるようにお願いいたします。

★ 内容に関する一切の権利は日本個人投資家協会にあります。事前の了承なく複製または転送等を行わない

特定非営利活動法人日本個人投資家協会〒103-0016 東京都中央区日本小網町 9-6 TEL03-3665-0211 FAX03-5641-2562 E-mail info@jaii.org

ようお願いします。

特定非営利活動法人日本個人投資家協会〒103-0016 東京都中央区日本小網町 9-6 TEL03-3665-0211 FAX03-5641-2562 E-mail info@jaii.org